

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム のどか		
所在地	北海道札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0170202808-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

喜び、生きがい、楽しみを見出すケアを心がけ、地域と共に笑顔のある生活に取り組んでいます。サービスの質を向上させるため、職員のスキルアップを目指し、内部、外部研修に参加し、参加者が必ず伝達研修を行っています。共用型認知デイサービスの利用者との交流や、地域の行事への参加、地域資源の活用を心がけ地域に根ざしたGHの運営を行っています。また、今後は介護相談が気軽にできる場所としてGHの存在をアピールしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ツクイ札幌太平グループホーム」は、JR百合が原駅から徒歩数分の静かな住宅地に立地している。百合が原公園をはじめ、近隣にも公園があり自然環境に恵まれた地域である。職員に理念アンケートを実施して振り返りを行うことで、全職員が理念に対する理解を深めている。管理者は、外部研修や法人研修を活用すると共に、計画的に毎月内部研修を行いながら職員の資質向上に向けて取り組んでいる。また、課題を提案しながら職員の意見を活かして、各職員が積極的にケアや業務に取り組めるように配慮している。介護計画は、事前に家族の意向を聴き取り、全職員で評価を行いながら見直しを行っている。日々の些細な変化についても職員間で検討して、各利用者の現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。年間を通した外出行事の他、利用者の希望に応じて個別や数人での外出機会も多く取り入れている。外食や出前などの機会には、各利用者の好きな物を選んでもらうなど、楽しく食事ができるように工夫している。日常生活の姿を写真に収めてアルバムを作成し、クリスマス会にプレゼントするなど工夫した取り組みも行っている。職員間のコミュニケーションも良く、利用者一人ひとりに応じたきめ細やかな対応は、家族と利用者の安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日の始まりとして、理念とスローガンを唱和し、理念について実践できているか会議でも話し合っている。	「家庭的な雰囲気の中でも、尊厳を大切にし、地域と共に笑顔のある生活」という理念の下、毎年スローガンを掲げて実践に繋げている。実践者研修後の報告研修や会議、理念に関するアンケートなどを実施して定期的に理念を振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、盆踊りに参加している。また町内の敬老会の余興に毎年参加している。	事業所の行事に、歌やギター演奏のボランティアが訪れている。散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、十五夜にススキを戴くなど日頃から地域交流に努めているが、事業所に地域住民や子供達が来訪する機会は少ない。	子供達との交流に取り組みたい意向を持っているので、今後は継続的な交流が出来るような働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の窒息を助けに行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、地域の方の意見や家族の悩みを聞き、情報交換を行っている。家族の参加が少なくなった	事業所の状況や外部評価結果報告、地域包括支援センター職員からの詐欺被害防止についての情報提供を受けている。議事録は来訪時に閲覧できるようにしている。利用者の入れ替わりにより、家族の参加が殆ど得られなくなって来ている。	会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の意見も会議に活かすような取り組みを期待したい。会議に理解を深めてもらい関心が持てるように、全家族に議事録を送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施指導や管理者連絡会などに参加している。	管理者は、運営規定変更の相談や書類の提出などで市役所を訪問している。提出書類で分からない事があれば電話などで相談することもあり、日頃から連携を深められるように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、入り口のドアと自由に出入りができるように鍵は掛けていない。会議でも身体拘束について研修を行いつづけている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した法人マニュアルを整備している。不適切なケアや事例に沿って身体拘束に繋がらないケアについて職員間で検討したり、禁止行為について年数回内部研修を行っている。利用者が出かけようとした時は職員も同行し、自由な外出を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、職員の体調やストレス解消などできているか聞きながら、防止に努めている。防犯カメラの設置をした。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者がいないため、研修で知っている程度で理解はできていない。今後は必要になってくるため家族の方と相談していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項を説明し、疑問点にも対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン説明の時に要望等を聞き、反映させている。	家族の来訪時や電話、介護計画の見直し時に意見や要望を聴き取っている。些細な意見をもらうこともあるが、職員間の連絡は殆ど口頭で行っている。職員間で共有できるように、今後は些細な意見も個別に記録していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談の機会を設けたり、普段の会話や相談ごとがあれば、その都度対応している	毎月全体会議とユニット会議を実施している。職員に順番に意見を聴いたり、事前にテーマを明示して各職員が意見や提案を発言しやすいように工夫している。管理者は、個別面談のほか随時職員と話す機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数や就業時間数によって、違いはあるが手当ての見直し、資格取得者の時給アップ、夜勤手当のアップ、資格取得のため支援制度を充実させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量を把握しながら、個人に合わせた指導をおこなっている。内部・外部研修への参加を呼びかけ、研修参加者の確保を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流する機会をつくっている。認知症カフェにも参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者より状況を聞き、その上でご本人に少しずつ不安なこと必要なことを聞き取り、安心して過ごせるよう努力している。また職員間で情報共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安に思うことや希望を確認。どう対応するか説明し安心してもらえるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの話を聞き、状況、状態に見合ったサービス利用を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら入居者様の情報を得て、お互いに協力しあう場面を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に過去から現在までの話を聞き、ホームの様子を伝えながら情報共有し、協力体制を築くよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に誰とでも交流できるよう努力している。	知人や友人が来訪する機会は殆どなくなっているが、個別支援で近隣のコンビニや公園、お菓子を食べたりお茶を飲みに出かけている。職員が同行して結婚式に出席したこともある。家族とお墓参りに出かけたり自宅で過ごすこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム全体、各階、少人数など関わり合いができるよう行事を企画したり、職員が間に入り利用者同士支えあえる関係、協力できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も連絡を入れ、状況を聞いて相談があればいつでも支援することを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が希望や意向を会話の中から把握するよう努力し、カンファレンスの中で検討している。	会話から思いや意向の把握が難しい時は、普段の仕草や家族から情報を得て本人の思いに沿えるように努めている。趣味や嗜好などが変化した時は、「生活歴」に随時追記していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	CM、利用者様や家族様から情報を聞き取り、今まで利用したサービスの経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、申し送りで情報を得ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを定期的実施し家族の思いや医師の意見を聞きながら介護計画を作成している。	家族の意向を事前に聴き取り、全職員で評価を行いながら計画作成担当者が3ヵ月毎に更新計画を作成している。短期目標に沿って介護記録に記載したり、職員間で意見交換しながら変化に応じてその都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録しケアプランが実施されているか状況の把握をし、定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり状況が常に変化するため、その時に応じた対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接のデイサービスにお邪魔したり、百合が原公園を利用するなど楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診(月2回)で、必要時は適切な医療と連携することができる。	数名は、定期的にかかりつけ医の往診を受けている。専門医を受診する時も職員が家族と共に同行して、健康状態を伝えている。医療関係について個別に記録している。	

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による週1回の訪問看護により、情報共有と相談、助言をもらいすぐに対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面での情報に加え、必ず病院へ出向き、情報交換を行っている。退院後も時々病院へ出向き関係を対切らない努力をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と職員と家族様交えて話しあいを常に行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、対応が難しい具体的な医療行為などについても利用開始時に伝えている。家族や本人の意向に沿って主治医の判断の下に看取りも行っており、昨年も1名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同研修や事業所研修で実践的な研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練と座学による研修を実施している。	防災設備業者の協力の下、年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。地域との役割分担を決めているが、避難訓練に消防署や地域住民の協力は得られていない。災害備蓄品や防寒用品は整備している。	年1回は消防署や近隣住民の協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。地震などの災害時における事業所内の危険箇所の確認とケア別の対応について、職員間で確認するよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの言葉かけを変えてその都度対応している。	接遇や認知症への理解を年に1回以上は学び、利用者の言動を制止しないよう注意している。申し送りやカンファレンスはスタッフルームで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたいですか?・どちらにしますか?など自己決定できるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や散歩、外出する時も無理強いはず、本人の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、口腔ケア時に都度行っている。また美容体験でお化粧し喜んでいただいた。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは力に応じてお願いしています。食事の好みは普段の会話から聞き、季節やイベントに合わせてメニュー作りや外食レク等楽しんで頂ける様にしています。	行事には、お寿司の出前や外出時に買ってきたパンをバイキング式にしたり、畑の収穫物で焼き肉料理などを楽しんでいる。数人や全員で外食し、好きな料理を選んで貰うこともある。出来る方はゴボウのさがきなどで調理に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の記録を残し、一人一人に応じて対応しています。介助が必要な方でも状態に応じて決められて時間以外でも水分、栄養が摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。ご自分で出来ることは行って頂き、仕上げ磨きにて口腔状態の確認にも努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方の排泄パターンを把握し汚染の少ないようトイレへ誘導しています。日中は布パンツを使用しますがパットは必要なため、使う頻度は減っていません。	昼夜ともトイレでの排泄を基本とし、半数程の方は自力で排泄ができ、日中は布パンツとパットで過ごしている。入居後におむつからリハビリパンツに変更し、トイレでの排泄が可能になっている。介助の必要な方には耳元で排泄を確認し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品を取り入れたり、水分、食事のバランス、日々の運動推進で予防に努めています。また医療機関との連携によって薬による排便コントロールもを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人週2回程で予定はしていますが、本人の体調や希望にあわせて時間や日程を調整し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。ゆず湯など変化をつけた入浴も支援しています。	利用者の意向に沿って、午前と午後の時間帯に週2～3回の入浴を支援している。毎回浴槽のお湯を入れ替え、希望の方には入浴剤を使用している。敬老会には、ほぼ全員で太美温泉に出かけ日帰りで温泉浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調に応じて休息できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員2人で確認し、薬の変更や症状については記録に残し全職員が把握するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるような役割、お手伝いの働きかけとし、イベント、レクリエーション等で楽しんで頂ける様努めています。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩に出かけている。外出レクを行い、普段行けない所へ行く機会を作っています。	暖かい時期に車椅子使用の方も散歩や玄関先で外気に触れている。花見や紅葉見学で季節を感じ、冬季もファクトリーや大通公園のイルミネーションを見学している。個々の希望に沿い大型商業施設や和洋菓子店などで買い物を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と一緒に買い物へ出かけ、必要なものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるよう伝え、操作がわからない場合は手伝っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾等で季節感を出す工夫をしている。湿度や温度計で確認しながら心地よく過ごせるよう調整している。	玄関内の壁に、お洒落な季節感のある利用者の作品が飾っており、温もりが感じられる。居間はユニットごとに利用者が過ごしやすようにソファの配置を工夫している。季節ごとに折り紙細工やちぎり絵の作品を飾ったり、日めくりカレンダーを目のつく所に掲示して見当識への配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真などを飾り、衣類など好きなものを着てもらっています。	居室には、クローゼットとハンガーかけが備えつけてあり、ハンガーかけに洋服や好みの飾りをかけている。使い慣れた椅子、テーブルなどの家具類を持ち込み、趣味の雑誌類や縫いぐるみ、家族の写真などを飾り、居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋やトイレがわからない方は解りやすく表示し、手すりの設置で転倒予防と自立歩行へつなげています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム そよぐ		
所在地	北海道札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0170202808-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

喜び、生きがい、楽しみを見出すケアを心がけ、地域と共に笑顔のある生活に取り組んでいます。サービスの質を向上させるため、職員のスキルアップを目指し、内部、外部研修に参加し、参加者が必ず伝達研修を行っています。職員の向上心があり、学ぶ姿勢を持っているため、チームケアの向上に期待している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	不定期ではあるが1週間ほど理念に関しての自己評価シートを業務終了後に行い、理念に基づいたケアを行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、盆踊りに参加している。また町内の敬老会の余興に毎年参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が相談に見えたら力になれるよう協力体制はできているが、こちらからの支援は今後の課題で、認知症サポーター研修等実施する予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、地域の方の意見や家族の悩みを聞き、情報交換を行っている。家族の参加が少なかった		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施指導や管理者連絡会などに参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサー使用等も家族様の同意を得て身体拘束における記録を残している。身体拘束についての研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行ったり、日々、身体観察を行い全員で把握することにより防止に努めている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶことはあるが、活用できていない。家族からの要望で成年後見人の方がいるため、もっと学ぶことが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、利用者との面談時などに不安な事、または要望を聞き説明。契約時は納得され締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等は来所時などに聞いているが外部へ表せる機会は外部評価のアンケートのみとなっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営は結果報告が多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数や就業時間数によって、違いはあるが手当ての見直し、資格取得者の時給アップ、夜勤手当のアップ、資格取得のため支援制度を充実させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に一人研修を受ける機会を設け、他の職員へ伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ツクイ社内の合同研修や勉強会があり、交流している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者より状況を聞き、その上でご本人に少しずつ不安なこと必要なことを聞き取り、安心して過ごせるよう努力している。また職員間で情報共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者からの情報をもとに、不安等軽減できるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の困りごとを聞き、管理者、計画作成担当者、介護職員が話しあい支援の内容を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体操やレクを通じてお互いの協力関係を築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援が必要なことも説明しながら、協力体制を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との関係に配慮したり、ご本人の好きな場所に行くなど支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取りやすい環境を職員が作り過ごして頂いている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も連絡を入れ、状況を聞いて相談があればいつでも支援することを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の希望、好み等に応じて、ケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経緯を把握しそれらを活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度、情報を共有し、現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを定期的の実施し家族の思いや医師の意見を聞きながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録しケアプランが実施されているか状況の把握をし、定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況をふまえた上で個々に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接のデイサービスにお邪魔したり、百合が原公園を利用するなど楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族、かかりつけ医と事業所が三位一体となって情報を共有し、支援している。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による週1回の訪問看護により、情報共有と相談、助言をもらいすぐに対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面での情報に加え、必ず病院へ出向き、情報交換を行っている。退院後も時々病院へ出向き関係を対切らない努力をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と職員と家族様交えて話しあいを常に行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同研修や事業所研修で実践的な研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練と座学による研修を実施している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮し、トイレでは目隠し布をする。入浴時は同姓介助を基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたいですか？・どちらにしますか？など自己決定できるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過ごしたい場合おやつや水分の提供を持っていくなど過ごしやすい環境作りをおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を一緒に選んだりどの髪ゴムを使いたいかなど希望を聞き支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の中に嫌いなものがあれば代替を提供している。食べにくい物はカットして提供。食事の盛り付けや片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に主食については量の調整をし提供している。水分摂取が進まない時は声かけや本人の好むもので提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。ご自分で出来ることは行って頂き、仕上げ磨きにて口腔状態の確認にも努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えの難しい方は時間の間隔を見て誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品を取り入れたり、のの字マッサージを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には予定を決めているが、本人の希望に添って変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣で時間を決めている方にはずれないように支援し、状況に変化がある場合、その都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は飲み込むまで見守りをしている。また頓服薬を服用した時は症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付けは進んで行なっています。趣味に添った外出や買い物支援、散歩等を行なっている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏は公園まで散歩、動物園や地域の百合が原公園へ出かけるなど、希望を把握し支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と一緒に買い物へ出かけ、必要なものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望により、ご家族様へ電話するなど支援を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と一緒に装飾を作って季節感を工夫し心地よい空間作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり好きな事ができ嗜好、趣味など尊重できる工夫ができた。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物が置かれご家族の写真や本人の写真など好みを活かして過ごせる工夫ができた。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の体力、機能を活かせるよう、手すりを利用した廊下歩行、杖歩行など取り入れ、窓には転落防止の工夫もしている。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌太平グループホーム

作成日：平成 28年 3月 4日

市町村受理日：平成 28年 3月 9日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の内容が報告や意見交換のみになっていて、家族の参加がさらに減少している。	家族や地域へもっとグループホームを理解して頂けるような、運営推進会議を開催する。	会議の内容を、地域包括支援センターの方にも協力して頂き家族や地域の方が興味や関心がある内容で、研修を行ったり、家族への案内を詳しくする。	一年
2	2	地域との繋がりを継続して行っているが、子供達との交流が減っている。	幼稚園や児童館の子供達との交流をすることで、相互作用で刺激になり、日常生活が活性化される。	幼稚園や児童館との交流ができるように、働きかける。	一年
3	35	災害時の避難訓練は火災を想定しているが、地震想定での訓練も座学では行っているが、すぐに行動ができるような訓練が必要。	災害時に職員全員がすぐに行動できる。地域との連携を深め、近隣住民にも訓練に参加してもらう。	年間計画のなかで、具体的な訓練を実施し、近隣住民や町内会の役員への働きかけを行ない、協力体制を作る。	一年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。